

研究方法入門 -MBA生のための研究デザイン-

Introduction to Research Design

for MBA Students



Session 3 | 研究レビュー

May 2, 2025

Takanori Kashino 柏野尊徳

Project Research Associate, Keio Business School

Founder, Eirene Management School

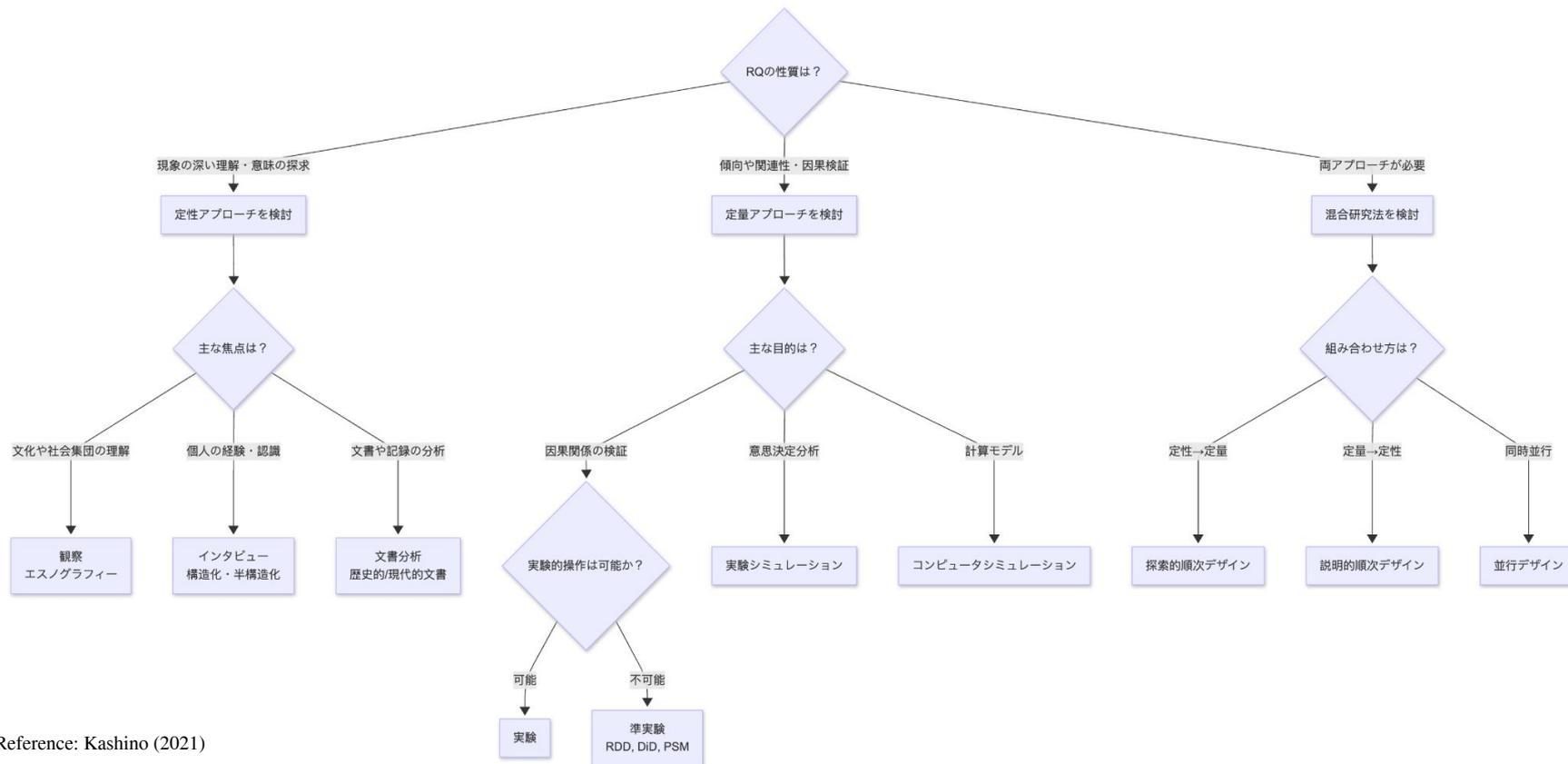
Recap: Quick Survey

1. リサーチ・クエスチョンを点検する

FINER (Hulley et al., 2013)

- ・ **F**easible : データ収集・分析可能か？
- ・ **I**nteresting : 問いは興味深い / 答えがわかると面白そうか？
- ・ **N**ovel : これまでの文献にない視点か？
- ・ **E**thical : 特定の個人や組織に不利益はないか？
- ・ **R**elevant : 利害関係者へインパクトをもたらすか？

2. 簡易フローチャート: 研究手法



Reference: Kashino (2021)

3. うまく書くための要素: 構成やテクニックの前に

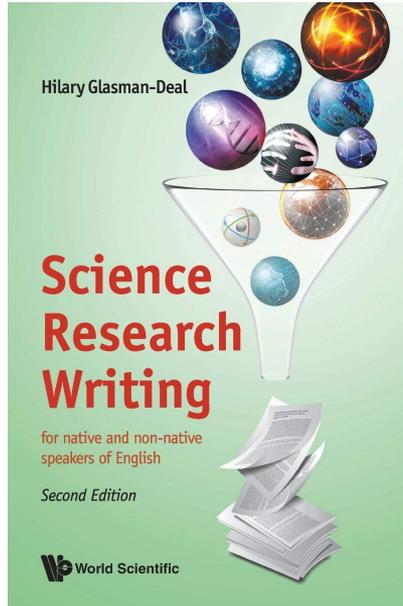
前提: 学術研究とは、過去の対話を理解した上で **理論的な貢献** を行うこと

1. 先行研究の流れが把握できている
 - Aという領域でa, b, cが議論されている。aの結果は+だったり-だったり一定していないが、bは常に+だと分かっている。cは常に-である
2. 先行研究と自分の研究の違いが分かっている
 - これまでa, b, cはわかっていたが、dという視点の研究は少ない
 - Aの前提は○○だが、□□という前提に立つと α ($\neq a$) が重要となる
3. 1と2より、自分の研究による理論的貢献が何か分かっている
 - 理論的貢献がなければ学術研究にならない
 - なお、定性研究ではデータ分析中に浮かび上がることも多い (Rouse et al., 2025)

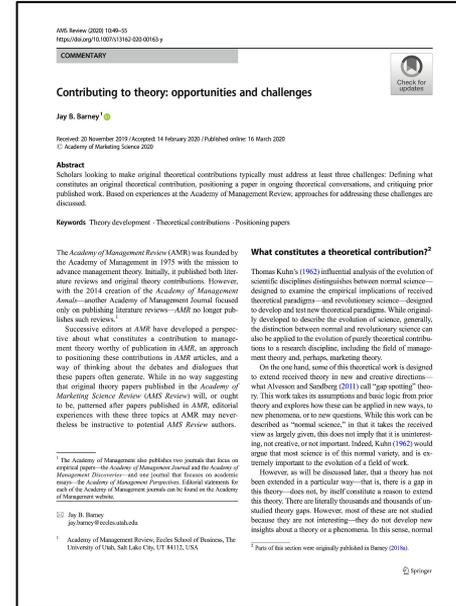
→ つまり: どれだけ先行研究を「**読めているか**」に左右される

参考:アカデミック・ライティングおすすめ資料

理論的な貢献をわかりやすく伝えるために



Glasman-Deal (2020)



Barney (2020)

4. 相互レビュー:FIRM

- **Focus (焦点):** リサーチクエスチョン(RQ)は明確か？研究を通じて答えが出せるか？ 答えが自明過ぎないか？
- **Importance (重要性):** なぜこの研究を行う必要があるのか？誰にとって、どのような意味で重要なのか？ 問題意識にどの程度説得力があるか？
- **Rigor & Realism (厳密性と現実性):** RQに答えるための適切な手法か？なぜそれがベストなのか？計画は現実的か？(リソース、アクセス、倫理面)
- **Map (繋がり / 論理構成):** 研究ノート全体(問題意識→RQ→文献→手法→貢献)は、論理的に一貫したストーリーになっているか？各セクション(特にRQと手法、RQと貢献)はきちんと繋がっているか？

References

- Barney, J. B. (2020). Contributing to theory: opportunities and challenges *AMS Review*, 10(1), 49–55. doi:10.1007/s13162-020-00163-y
- Glasman-Deal, H. (2020). *Science research writing: for native and non-native speakers of English* World Scientific.
- Hulley, S. B., Cummings, S. R., Browner, W. S., Grady, D. G., & Newman, T. B. (2013). *Designing Clinical Research* (Fourth ed.). Philadelphia: Wolters Kluwer Health.
- Kashino, T. (2021). A Methodological Review of Institutional Theory in Entrepreneurship Research. Available at SSRN: <https://ssrn.com/abstract=4497847>
- McGrath, J. E. (1981). Dilemmatics: The Study of Research Choices and Dilemmas *American Behavioral Scientist*, 25(2), 179–210. doi:10.1177/000276428102500205

Thank you :)

Takanori Kashino

<https://kashino.eireneuniversity.org/>
kashino@eireneuniversity.org